

日本教育心理学会第47回総会

準備委員会企画シンポジウム

平成17年9月19日

学校における諸問題の解決に向けて
—関係機関との連携のありかた—

榎の会こどもクリニック

石川 丹

社会福祉法人・榆の会

札幌市厚別区厚別町下野幌49

- 知的障害児通園施設「きらめきの里」
- 肢体不自由児通園施設「こもれび園」
- 発達に心配のある幼児のための「プレイルームにれのかい」
- 知的障害者、身体障害者、重症心身障害児（者）のデイサービス
- 小規模作業所、訪問看護、居宅介護
- こどもクリニック

学校との連携

- 法人としての連携
地域療育等支援施設事業（札幌市内）
言語療法士、理学療法士
、作業療法士、心理療法士、コーディネーター、医師の派遣
- こどもクリニック医師による直接連携

楡の会こどもクリニック

- 知的障害、身体障害、軽度発達障害、思春期の心の心配
- 心理発達アセスメント
WISC-III、K-ABC、バウムテスト、P-Fスタディ、ベンダーゲシュタルトテスト、その他
- 心理療法、作業療法、理学療法、言語療法
- 薬物療法
- 外来、入院、ショートステイ
- 外来診療予約制、電話011-898-3934

診療の対象

- 発達と心の心配のある子
- すべての子ども、思春期も
- 予約 電話011-898-3934
- 保護者のみでも可、
- 学校連携は保護者の了解のもと(医療は個人的な関係行為だから)
- 一般的相談も可能
- 以前に通院していた子の担任から保護者の同意がないままの電話相談1回

医師による直接連携H17年4月～(1)

来院

	小1男	普通	乱暴	担任	小
任、校長					小
3男	普通	不登校	担任		
4男	普通	不登校	担任		
	小4女	普通	不登校	担任	
	中1男	特殊	乱暴	担任	
	中3女	普通	神経症	担任	

医師による直接連携H17年4月～(2)

E-メール

小2女 養護 不登校 担任

電話

中2男 普通 乱暴 SC

文書

校内研修会講師

「特別支援教育の対象としての発達障害」

攻撃的な子の特徴

- “敵意帰属バイアス”が高い。
例えば、相手の手が偶然当たったとしても相手は「わざとやった」と思う場合、つまり加害者の意図をことさら悪意に解釈する場合を “敵意帰属バイアスが高い” という。
- 罪悪感は少ない。

乱暴な子、中1男児（1）

- 1 滑って転んだ時、級友に笑われたと思ってその子を何回も叩いた。その子はよく笑う子なので先生が「君の勘違いだ、暴力は良くない。」と言い聞かせたが、頑として聞き入れなかった。
- 1' 「転んじやったね。滑ったんだね。笑われちゃって悔しかったんだね。悔しかった君の気持ちは良く分かる叩くんじゃなくて、『謝って』と言った方が良いよ。」と本人の気持を受容代弁し“怒り”を“悔しい”に変容させつつ、笑った子には「悪気は無かったんだよね。でも、悔しがってるから『笑ってしまっって御免なさい』って言おう。」本人には「御免なさいって言ってるから、君も謝ろう。」が好ましい対応である。

乱暴な子、中1男児（2）

- 2 教材をバーンと乱暴に置いたので「置き直して」と言ったら怒った。他の先生が「そんなんで怒るなんて、おかしい」と言ったら、教室から飛び出してトイレに籠った。3時間待って出て来た時、「乱暴に置いたのは良い事？悪い事？」と問うと「悪い事」と答えた。
- 2' 「バーンって、たまたまそうなっちゃたんだよね。乱暴にするつもりは無かったんだよね。次の時はやさしく置こうね。」と諭したとしたら、教室から飛び出さなかった可能性が高かった。でも、3時間待ってくれた先生には感謝！

不登校例のメール連携(問い)

5～7月は昼夜逆転のため、出席の無い子に6月から週1回の家庭訪問を始めました。

ねらいは短時間でも良いから登校すること、保護者との信頼関係を築くことです。

本人は担任の訪問を楽しみ、「学校に行きたい」「運動会は疲れる」と言っています。

家庭訪問が客観的に見て有効なのかどうか、ご意見をいただきたい。

不登校例のメール連携（答え）

登校を促す場合、本人が興味を持っていることだけをやりに行くことを説明し、登校できたら予定が終わったところで、予定通りに下校させることが大切です。

折角来たのだからあれも、というふうに予定延長は避けるべきです。

誰でも『予想通りニンマリ・予想違いガッカリ』で、障害のある子は予想違いガッカリ経験が多く、「もう嫌だ」感が鋭敏ですから。

定位反応(ソコロフ):人間の根本的心理過程

- 「ありや何だ? ああ、あれか」
注意と慣れ
- 問題と解決
→納得、満足、成功体験、達成感
---“予想通りニンマリ”
- 「ああ、あれか」がなければ
→恐怖、落胆、恨みつらみ
---“予想違いガッカリ”……障害児に多い
- “予想通りニンマリ”作り=見通しを良く

“予想通りニンマリ”作り

- “見通し”良く
- 構造化・・・時間的構造化、場所的構造化
- 二つ先のアナウンス、二つ手前からのアナウンス
- 時間割、本人に分かり易く
- 何時もの時間、何時もの場所、何時ものやつ
- 良いこと作り
- 「苦あれば楽あり」から「良いことあるから嫌なこと我慢できる」へ
- “オッケー”の声掛け

褒めるところの見つけ方

- 一つだけのエピソード、を実況中継するように順々に、写實的に、子どもあるいは大人が言ったことも、具体的に、思い出しながら話してもらおう。
- 良いところ見つけ！
- 褒められる。認められる。
- 子どもに対する親の否定的感情の修復へ。

“いいとこ”見つけ; 8歳男児

母; わがまま、我を通す、怒られてもケロッとしている、毎日ゲームばかり。

一つのエピソード; 3時からゲームを始め、何時までも止めないので、5時半になって「勉強しなさい！」と言ったら、「8時頃やる」と答えた。6時に夕食、8時からワークを始めた。

いいとこ見つけ; 5時半にした約束を2時間以上経っても忘れずに履行した。

大人が言う“問題行動”への基本的スタンス

- 受容

「取り敢えずは、君のやり方で良い。
それでね、～してみよう！」

“安心”作り

- 小6、自閉症男児、有意語はない、チックあり。
- 3ヵ月ステイ終了前日から自傷、顔が腫れ上がった。10日後初診、発声チック頻繁、父か母が児の手を持っていないと顔を叩く状態が続いていた。
- 手に手を取っている状態は続け、お互いの腕にゴム紐を絡ませることを提案。離れてもゴムが伸び「繋がってるから、大丈夫！」の声掛けをする。
- 10日後、こぶしから平手へ、10→7。1ヵ月後、叩く力も抜け、以前の半分程度になって、腫れもなし。

11歳自閉症児の自己説得（診察室にて）

- 壁を叩いたり、座ったり、あっちこっち徘徊しているうちに、母親の隣りの椅子に座って、「た〇や（自分の名前）君、嫌がる、バッテン、マルではありません。嫌がったらバッテン。」と呟いた。
- 空かさず『お座り出来たね、マルッ！』と声掛けしたところ、つぶやきながら着席し続け、母親へのカウンセリングを続けられた。
- 受容（君のやり方でオッケー）の声掛けが、好ましい行動を強化した。

大声→つぶやき

- 小1男児、精神遅滞
- 気に入らないと出していた大声「ヤダー」「キーッ」を我慢できるようになった。
- 母や教師の励ましの声掛け「がんばれ、がんばれ」「すぐ終わるよ」を「ヤダー」「キーッ」の代わりに小声でつぶやくようになった。⇒自己説得！
- 大声＝有害 → 小声＝無害
- DV (Domestic Violence、配偶者暴力)における衝動性遅延法と同じ。